

学生柔道重量級選手における等速性体幹筋力と競技力の関係について

研究キーワード



- 柔道
小学生・中学生・高校生・大学生・社会人・諸外国を対象とした柔道の普及発展活動
- 子どもスポーツ
運動が苦手な子どもに身体を動かす楽しさや基礎的な運動能力を高める指導

連携アピール



- 平成30年から、コーチング学研究室では、地域貢献型活動の「はなまる学舎」を展開しております。この活動の趣旨は、「先生」を目指す学生を地域の皆さんで育てませんか？というスローガンのもと、様々なスポーツ活動と学習活動を通じた地域の子も達との触れ合いの中で、地域の方々と一緒になって学生教育を行い、学生および地域の子も達共に相互に成長する事ができるものです。内容は、お子さんの宿題を一緒に考えたり、運動の基礎的な能力を高める・構築するために考案された遊びなどを中心に行います。これまでは、週に2回のペースで行って参りましたが、ゼミ学生との話し合いのもと、ニーズにあった事業展開ができればと思っています。（現在、新型コロナウイルスの影響により中断中ではあるが、令和6年度からは何らかの形で再開する予定）

本研究の概要

- 本研究では、二つの順序尺度の相関を示すSpearmanの順位相関係数を用いて、柔道選手の体幹筋力と競技力の相関について調べた。その結果、上位群においては、高速度の体幹伸展トルクと競技力との間に有意な順位相関が認められた。上記の結果は、団体戦ポイントゲッターに相当する競技力を有する学生柔道重量級選手では、速い動きの中で体幹を伸展する能力の優劣が競技力に影響を及ぼす可能性を示唆する。



研究者



佐藤 武尊（さとう たける）
教育学部教育学科 准教授

